

NOSAIの技術情報



No. 4

平成18年8月28日
神奈川県農業共済組合

水管理に気をつけ品質の良い美味しい米作り

水管理は極めて重要です。水管理を適切に行い、水稻を健全に生育させ品質を向上させましょう。用水不足はイネの収量に大きく影響しますが、生育時期によって異なります。

水稻の根を健全に保つため、出穂 10 日後～30 日後までは間断灌水を基本とした水管理を行い、根への酸素補給により根の活力向上や、土を締め倒伏予防効果を助長させます。

穂が出来てから1ヶ月間は水を切ってはいけない

健全な穂の発育と出穂・受精を促進するため、出穂 15 日前～出穂 10 日後までは湛水状態とし、水を切らさないようにして下さい。

出穂後 30 日前の早期落水はしない

早期の落水は、胴割粒、白未熟粒や屑米の発生を増加させます。落水の目安は、出穂 30 日以後、又は成熟期の約 10 日前頃、全体の籾が 75～80%黄化した頃とします。

水稻生育ステージごとの水管理とその効果

水稻ステージ	月・旬()は 中生品種	水管理の概要	効果・留意点
幼穂形成期～ 出穂・穂揃期	7月中旬～ 8月上旬 (7月下旬～ 8月下旬)	常時湛水 * 特に出穂期の前後20日間は、穂ばらみ期～登熟初期のため水を切らさない	水を最も必要とする時期、水が無いと籾の形成、受精、登熟に障害が出る。
登熟初・中期	8月中旬～ 9月上旬 (8月下旬～ 9月下旬)	浅水(概ね2～3cm) 一時深水にして、自然に減水させ、水がなくなったら再び湛水にすることを繰り返す「間断灌水」を行う	水を必要とする時期、根の活性維持・倒伏予防土壌への酸素補給に効果
黄熟期	9月中旬 (9月末～ 10月上旬)	落水 * 出穂後30日以前の早い落水は、登熟を抑制し、乳白米や胴割米等が増加する	水は比較的必要としない時期、収穫作業準備のために田面を固める

(参考文献) 神奈川県水稻栽培の水管理